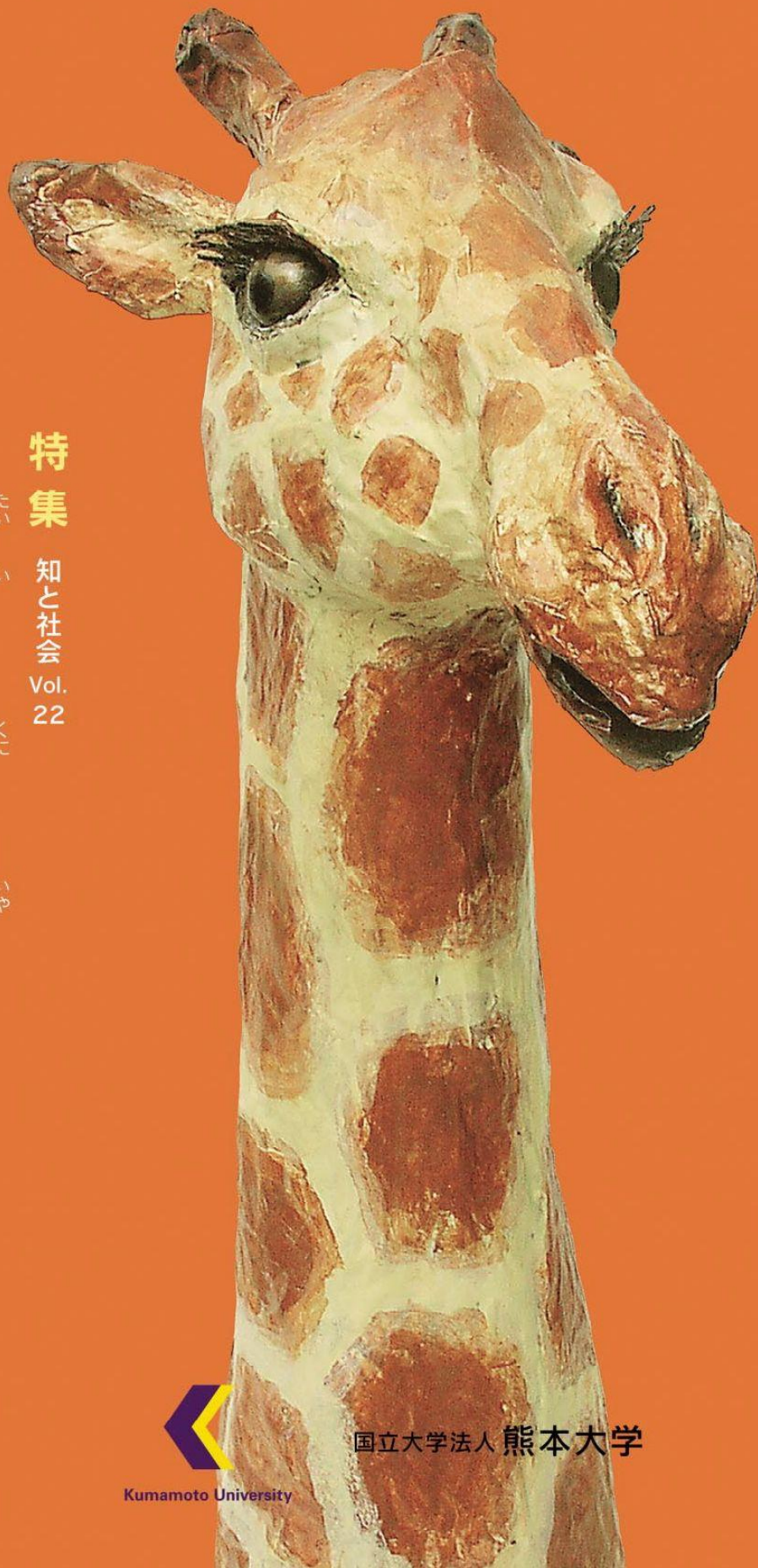


KUMADAI TSUSHIN

熊大通信

Vol.22
Oct.2006



特集 知と社会 Vol. 22

『大たい醫いは國くにを醫いす』

— 肥後医育250年の歩みと熊本大学医学部 —



Kumamoto University

国立大学法人 熊本大学



熊本大学の約束(KU4U)

Kumamoto University For You

私たちは、熊本大学を開かれた心地よい環境の大学として、次の4つのことに全力を投入します。

Upgrade

未来を生き抜くプロフェッショナルの養成

Union

地域連携と社会貢献

Unique

新たな知的価値の創造

Universal

留学生教育と国際貢献

CONTENTS



1 知と社会 Vol.22

『大醫は國を醫す』

—肥後医育250年の歩みと熊本大学医学部—

6 夢の実現 Act.10

めざすは「柔よく剛を制す」ものづくり

大学院自然科学研究科 助教授 田中 尚人

8 地域とともに

子どもたちが理科を好きになるきっかけに

「夏休みの自由研究に関する技術相談会」 工学部技術部

10 卒業生を訪ねて

勉強も仕事も人生も、土台をしっかりとすることからはじめたい

税理士(甲斐郁子税理士事務所) 甲斐 郁子さん

12 国際交流

日韓交流を促進した「熊本大学韓国フォーラム2006」

韓国科学技術院と大学間交流協定も締結

14 熊大 INFORMATION

おすすめの一冊 生涯学習教育研究センター教授 嵯峨 忠

熊本新哲学の道 企画部 企画課 北本 智美



表紙 Giraffe 材料(新聞紙、木) 幅24 奥行き35 高さ78(cm)

作者/中村靖浩 NAKAMURA YASUHIRO

プロフィール：熊本県天草生まれ。熊本大学教育学部美術科卒業後、ゲーム制作会社でグラフィックデザイナーとして7年勤務。今年からフリーのイラストレーター、アーティストとして活動を開始。パソコンによるイラストの制作と同時に、紙を使った立体なども作成しています。

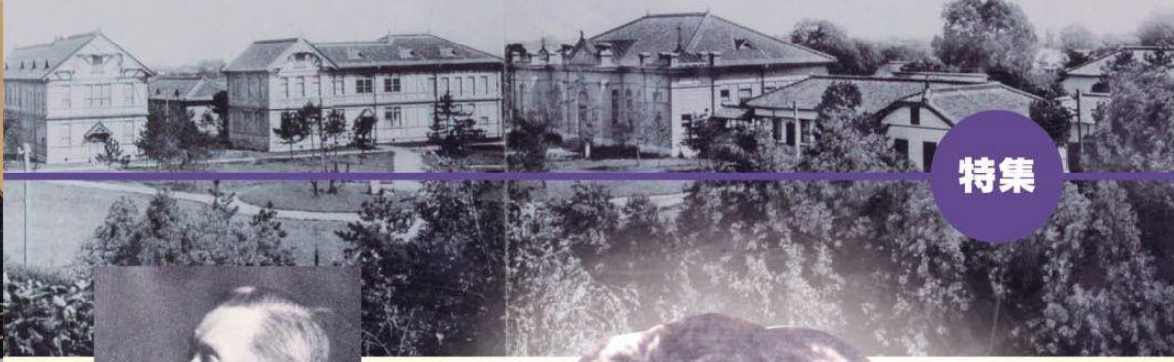
コメント：キリンの頭像です。新聞紙の張りアで制作しています。持ち運びの際、入れ物から頭が出てると子供や大人がビックリして、話しかけてきます。リアルというより、少し荒めの表面処理で手の跡を残す事によって、手触りや存在感を出すようにしています。

<http://www1.newweb.ne.jp/wb/spankposs/>

特集



細川重賢公像
(永青文庫蔵)



マンスフェルト氏



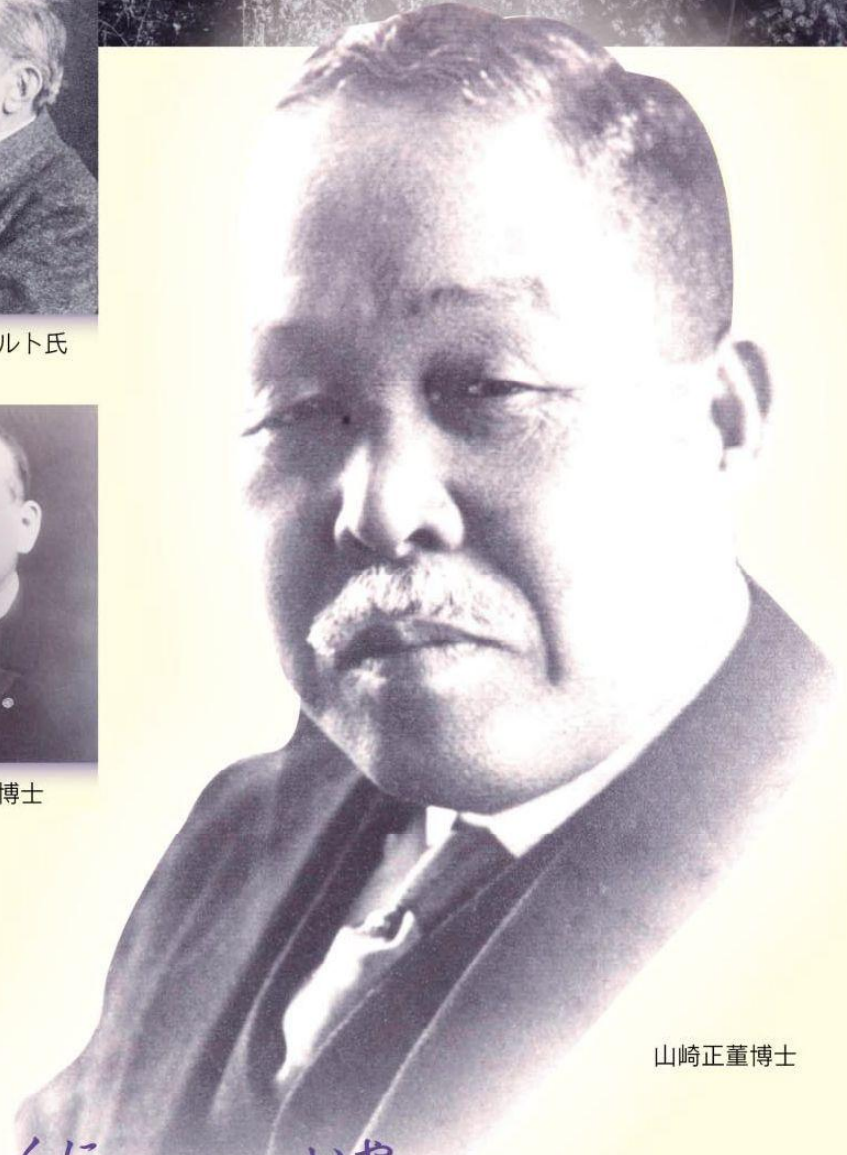
北里柴三郎博士



谷口長雄博士



蟻田功博士



山崎正董博士

知と社会 Vol.22

『大医は國を醫す』

—肥後医育250年の歩みと熊本大学医学部—

日本の公立医学教育は、宝暦6(1756)年肥後藩主・細川重賢公が創立し、翌7年に開校した医育寮「再春館」から始まった。

爾来250年。その伝統と精神は、正しく、現在の熊本大学医学部に継承されている。節目の年を迎えた今年、常に時代に先駆けてきた肥後医育の王道を照射する。

「興国の本は興学にあり」
日本で最初の公立医学教育

肥後細川藩の第八代藩主・重賢公は質素儉約を奨励し、殖産興業を命じるなど、多くの賢政を敷いた。中でも、教育面における宝暦4(1754)年の藩校「時習館」※1とそれに続く医育寮「再春館」※2の開校は、肥後の将来をつくるのに大きな役割を果たした。重賢公は「興国の本は興学にあり」と、これらの学校をつくり、広く門戸を庶民にまで開いて優秀な人材を育成、登用した。

殊に、再春館の開校は、明和2(1765)年幕府が江戸に開校した「躰寿館」よりも9年も早く、公立の医学教育機関として日本初であり、そこでの教育と治療のために開かれた薬草園「蕃



小野友道熊本大学理事・副学長

滋園」※3とともに、本邦医育の嚆矢として認められている。

壁書に伝わる
医は仁術の精神と学びの心

医育寮の壁には、次のような言葉が掲げられていた。

一、医の道は岐黄を祖述し、仁術に本づく、故に尊卑を撰ばず、貧富を問はず、謝儀の多少を論せず、専本分を守るべき事

一、近世治療を先にし、学業を後にするの輩、仮俗間に信ぜらるるとも、一旦の僥倖なり、学業を専にして療治の準繩とすべき事

一、師を責ぶは古の道なり、会寮の諸生温順恭和、教授之誨諭に背かず、紀律の條目にもとるべからず、且経史子集は教を時習館に受くへし、此寮に於ては

唯自己の本業を学べき事

医学部出身の小野友道熊本大学理事・副学長(元医学薬学研究部長・皮膚科教授)は「この3か条は、医の道は仁術を基本とし、医学の研鑽を積んだ上で治療にあたること。また、

COLUMN.1

松の廊下と肥後藩

「忠臣蔵」でおなじみ、主君のあだを討った赤穂浪士のうち、大石内蔵助はじめ17人を肥後細川藩の江戸屋敷で預かった話は有名だが、元禄14(1701)年、松の廊下で斬りつけられた吉良上野介の治療を行った外科医の栗崎道有もまた肥後にゆかりのある人だった。道有の祖父・道喜は肥後・宇土の出身で、幼い頃長崎に行き、そこからルソンに渡って外科術を習得。帰国後、南蛮流外科栗崎流を開き、その医術が代々に伝えられた。再春館では漢方医薬が中心だったが、安永2(1773)年から、この栗崎家らによって南蛮流外科も教えている。

師を敬い、幅広い教養を身に付けながら、専門の医学を真摯に学ぶことの大切さを示しています。まさに、医学医療の王道ともいえる訓條であり、西洋医学中心となった今も立派に継承すべき精神です。わが熊本大学医学部で学ぶ学生たちは、この伝統と精神を正しく受け継いで欲しいものです。その言葉通り、熊本大学医学部の新入生に渡される『学生便覧』には毎年必ず、この「再春館壁書」が載せられている。

日本近代医学の基盤をつくった 古城医学校の出身者たち

明治3(1870)年、熊本藩知事・細川護久は、横井小楠の思想を受け継いだ実学党豪農派の有能な人材を重用し、近代化に向けて改革を断行。これにより、時習館も再春館も廃止されたが、同年、熊本城古城に洋学校と西洋医学「医学学校」が開校した。重賢公の思いは、維新を超えて受け継がれた。

古城医学校は、長崎にいたオランダ人医師のマンズフェルト氏を招いて西洋医学を教育。その教え子の中から、日本近代医学の基盤をつくった巨星たちが輩出した。

東京帝国大学(当時)の衛生学初代教授で、日本の衛生学の開祖、細菌学の始祖として知られる緒方正規博士(現在の熊本県八代市出身)、
同大の初代産婦人科教授で日本産婦人科学会の初代会長となった濱田玄達博士(同宇城市出身)、そして破傷風菌の純粹培養やバクテリアの発見、血清療法の開発などによって世界に認められ、福沢諭吉の援助で伝染病研究所を設

立、後に慶應義塾大学医学部を創設し、日本医師会の初代会長ともなった北里柴三郎博士(同小国町出身)の三人は、特に有名だ。

時代の波に翻弄されながら、 先駆け、守られた医育の伝統

マンズフェルト氏が任期を満了して教壇を去ると、古城医学校は自然閉校。代わって、明治9(1876)年手取本町に「県立医学校」が開校したが、翌10年の西南戦争によって焼失。その後、「熊本医学校」として再興されたが、同21(1888)年勅令※4によってまたもや廃止に。

明治28(1895)年、熊本県は愛媛県松山病院長だった谷口長雄博士を院長に迎えて県立熊本病院※5を再興。翌29年、谷口院長を初代校長として「私立熊本医学校」が創設された。現在の熊

本大学医学部は、この私立熊本医学校を前身とするが、直接今の医学部になつたわけではない。

法令や学制の変遷などにより、「私立熊本医学専門学校」、「県立医学専門学校」、「県立熊本医科大学」と変わり、昭和4(1929)年「国立(国立)熊本医科大学」となり、同24(1949)年「国立熊本大学医学部」となるまで、幾度も荒波を乗り越えてきた。

土佐のいごっそう、肥後のもっすに 熊本医科大学中興の祖・山崎正重博士

荒波の最たるものが、大正10(1921)年、私立から県立への移管とその後の県立医科大学人事をめぐる騒動。この時期に活躍したのが熊本医科大学中興の祖と呼ばれる山崎正重博士だ。

博士は、明治35(1902)年、私立熊本医学校教授兼県立熊本病院産婦人科



大正10年ごろの内科実習風景

COLUMN.2

熊本で生まれた 日本の赤十字活動

肥後藩の藩医・鳩野宗巴は、私塾「亦楽舎」において多くの医師を育成した医家の名門。西南戦争当時、八世宗巴が疎開していた別荘の拜聖院(現熊本市室園)に、戦いで傷ついた官・薩摩両軍の兵士が運ばれ、八世宗巴は同僚の医師とともに治療にあたった。この活動は、佐野常民が敵味方の区別なく治療する博愛社(日本赤十字社の前身)の設立よりも3か月も早く、拜聖院は日本の赤十字活動発祥の地として知られている。



岡村良一 熊本大学名誉教授

部長に着任した後、大正5(1916)年愛知医科専門学校校長(後に愛知医科大学学長)として一度は転出した。

だが、大正14(1925)年、谷口学長の急逝によって紛糾した熊本医科大学に学長として着任。自ら廊下を雑巾がけし、講義中に不真面目な学生に喝を入れるなどの熱血漢ぶりを発揮して、これを治めた。

熊本医育史の研究を深め、博士の功績に詳しい眼科医の岡村良一熊本大学名誉教授は「山崎先生は2度目の来熊時、本籍地を高知から熊本に移しておられました。この事実を先生のご遺族からうかがったとき、先生は命がけの覚悟で熊本の医育に当たられたのだと深く感動しました」と話す。

情熱的で頑固一徹な高知人の気質を表した言葉「土佐のいっこつそつ」そのも

のだった山崎博士は、同じような精神を持つ「肥後のもっこす」になったのだろう。その後、県立から官立(国立)大学への移管昇格に尽力。昭和4(1929)年官立(国立)熊本医科大学の初代学長となった。

國を癒す大醫 蘇峰も讀えた山崎博士の功績

博士の活躍は、学内だけにとどまらない。最初の赴任では、日本婦人科学会初の地方会である熊本婦人科会を起したほか、「鎮西医報」の主幹として数々の論文をこれに執筆するなどして、熊本の医学界を牽引。

2度目の赴任では、財団法人「恵和会」を設けて教職員や学生、県立病院入院患者の福利厚生を図った。また、自ら出資して財団法人「実験医学研究所」(現在の財団法人「化学及血清療法研究所」)はその流れを汲む)を設立、その収益を医科大学の研究費に寄付。「鎮西医海時報」を創刊して、大学と卒業生や県内の開業医との連携を深めるとともに最新医療や衛生思想の普及に努めた。今、熊本が全国で最も医療連携が進んだ地域として知られているのも、大学を中心とした医療ネットワークがこのように早い段階からしっかりと築かれていたからに違いない。



熊本大学医学部附属病院の敷地にある山崎記念館。昭和6(1931)年、山崎博士の長年の功績を記念して建設された。今年はじめ、世界最先端の医療設備を整えた新中央診療棟を建設するため、建物をそのまま移動させる「曳き家」工法によって48m移動し、90度回転したうえ、保存。今後一般に公開される。

加えて、博士は最初に熊本に赴任しやすく、「再春館」に始まる肥後医育の先見の歴史を知った。と同時に、その資料が散逸しはじめていることを危惧。忙しい公務の合間を縫って、自ら資料を集めて記録、昭和4年「肥後醫育史」を上梓した。熊本が生んだ当時のスーパー言論人・徳富蘇峰はその序に寄せて、「小醫は病を醫し、中醫は人を醫す。而して大醫は國を醫す」という中国の故事を引き、博士を「大醫」と讃えた。

岡村名誉教授によると、「先生のご功績は医学や医療に関することだけではありません。ご退官後、『横井小楠』を著されたほか、九州・沖縄に残る古瓦の蒐集にも専心されました。このコレクションは熊本市立博物館に寄贈され、貴重な歴史資料として、現在も研究が進められています。歴史や文化研究にも大きな足跡を残し、まさに「大醫」を具現化した人だった。



山本哲郎熊本大学医学教育部長兼医学部長

COLUMN.3

肥後医育二百五十周年記念事業

熊本大学医学部や財団法人「肥後医育振興会」などが中心となって、『肥後医育史』（山崎正董著）や『山崎正董』（荒木精之編著）の復刻のほか、広く一般に向けて、講演会などの記念事業を予定している。

●記念講演会

期日：12月9日(土)13:30~14:30

場所：熊本テルサ

講師：細川護熙氏（元内閣総理大臣）

●記念展示会

期日：12月21日(木)~24日(日)

場所：くまもと県民交流館パレア

内容：肥後医育歴史資料の展示、医療相談ほか

肥後医育250年の歩み

- 宝暦 6(1756)年 肥後藩主・細川重賢公、医育寮「再春館」を創立。
- 明治 3(1870)年 再春館を廃止、藩立病院治療所と医学講習所設立。
- 4(1871)年 廃藩置県により、官立医学校兼病院(通称・古城医学校)と改称。
- 21(1888)年 勅令により、全国の県立医学校が廃止。
- 29(1896)年 県の補助を受け、私立熊本医学校創設。
- 37(1904)年 専門学校令により、私立熊本医学専門学校となる。
- 大正 10(1921)年 県立に移管され、県立熊本医学専門学校となる。
- 11(1922)年 県立熊本医科大学となる。
- 昭和 4(1929)年 官立(国立)熊本医科大学に移管昇格。
- 24(1949)年 熊本大学医学部及び附属病院となる。
- 30(1955)年 熊本大学大学院医学研究科を設置。

出でよ、現代の大醫たち
熊本大学医学部の新たな挑戦

熊本医科大学とそれに続く熊本大学医学部は、20世紀の偉業といわれるWHOの天然痘根絶を成功に導き、今も世界の感染症対策に取り組む医師、蟻田功博士(財団法人「国際保健医療交流センター」理事長)、透析患者を悩ませてきた腎性貧血に対し、世界中で使われている治療薬(エリスロポエチン)生産への道を開いた宮家隆次博士など多くの人材を送り出した。そして今、エイズ学研究や発生医学研究などの分野で最先端の研究成果を世界に発信するとともに同医学部は、医師や医学研究者の育成にも努めている。

山本哲郎熊本大学医学教育部長兼医学部長は「近代医学は人間を細胞や分子レベルにまで細かく分析することで進展しました。ところが、こうした研究が進む中で、病気の発症や治癒は個人によって大きく異なることも分かってきました」と語り、「これからは、病気を診るだけではなく、病んでいる人を社会の中の存在」としてトータルに診、治療できる医師を養成することが大切だと思えます」。

社会の中の存在として病んでいる人を診るとは、即ち社会に目を向けるといふことに他ならない。肥後医育の開始から250周年。その歴史と伝統を踏襲して、熊本大学医学部は21世紀の「大醫」たちの育成を期している。

※1 熊本城内(現在の二の丸広場)に置かれた藩校で、朱子学を奨励。

※2 設立当時は角井(現在の熊本市二本木町)と呼ばれていた地に置かれた。初代筆頭教授は藩侯の病気を癒し、高潔な人柄で知られた漢方の名医・村井見朴。その後、城下の山崎町に移転した。

※3 薬草を自給するため、重賢公の命によって開かれた薬草園。現在の熊本市薬園町のあたりにあったといわれており、地名にその名残がうかがえる。薬草の一部は、現在の熊本大学構内に移植されたとも伝えられている。

※4 「地方税による公立医学校廃止」の勅令。時の文部大臣、森有礼は、公立の医学校を減少させる意図はないと明言していたが、府県立医学校にとっては事実上の廃校命令となった。

※5 この病院は、全館スチームをはじめ、当時最先端の病院設備を誇っていた。

夢の実現 Act 10

Dreams come true

大学院 自然科学研究科
環境共生工学専攻 (社会環境工学科)
地域風土計画研究室

助教授 田中 尚人

めざすは
「柔よく剛を制す」ものづくり

川を治め、道を造り、橋を架ける。こうしたインフラ整備の根底にあるのが、社会環境工学です。今回は、景観や歴史、風土を切り口に、もっと人に、もっと地域に寄り添う社会環境を総合的にデザインしよう、と提唱している田中尚人助教授に話をうかがいました。

奥が深いぞ！土木工学

「数学と物理が得意で、人の役に立つ大きなものがつくりたかった」という理由から、京都大学工学部土木工学科に入学した田中助教授。入学後、伝統と実績のあるアメリカンフットボール部に所属してこれに熱中。この部活動を通して、チームワークや部を支える裏方の働きを経験したことが、今、多くの人と協同して研究を進め、とりまとめることにも大きく役立っているそうです。

「学部では水理実験の研究室に所属しました。土木に携わる参考にと卒論

作成時に、指導教官から手渡されたのが、大学の先輩で当時の建設省に勤めておられた関正和さんが書いた『大地の川』、『天空の川』の2冊の本。関さんはガンのため早くに亡くされましたが、それまで治水一辺倒だった日本の河川改修に、美しさや環境という当たり前の視点を取り戻す『多自然型川づくり』を推奨した人。関さんの本を読んだ頃から、土木工学には何かしらの哲学がある、奥が深い学問だと思いうようになりました」

もっと人に、
もっと地域に寄り添って

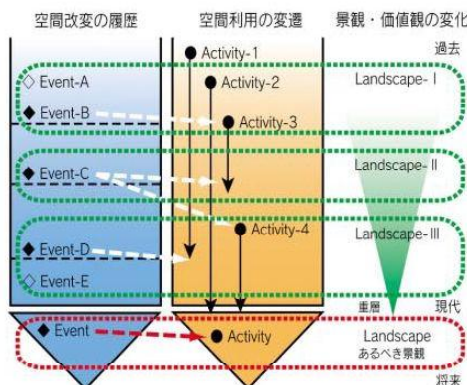
卒業研究では、岡山城周辺の旭川に造られた越流堤と放水路の組み合わせについて考えました。当時「川除け」と呼ばれていた治水技術について、技術指南であり儒学者でもあった熊沢蕃山を取り上げ、土木史料を読み、フィールド調査を行うとともに、水理模型を使って工学実験を行いました。これにより、城の堀が何故そんな形なのか、旭川は岡山城にとってどんな存在だったのかなどを理解し、川の魅力が実感できました。

さらに大学院に進むと、京都を舞台に、納涼床(夏場、川に沿って建つ商家が納涼のために川面に組み立てたテラ

風土に根ざした地域づくり

過去の「空間変化の履歴(図中:青の流れ)」と「空間利用の変遷(オレンジの流れ)」との関係性を考察すること(各白矢印)は、あくまで推測でしかない。各時代の景観や価値観(緑の囲み)と照らし合わせることで、その土地・地域の風土を学ぶ材料となる。

今後、これまで積層してきた景観の上にどんな利用を生み出し(赤矢印)、どんな景観となって人々に認識され、価値付けされていくのか(赤の囲み)を考え、継承されるべき地域の姿を実現していくことが、私たちの研究です。





京都の夏の風物詩として知られる鴨川の納涼床(のうりょうゆか)。田中助教は鴨川の治水技術と水辺の楽しみ方、風流の作法を受け継いでいくことについて考え、京都の川はまちの文化基盤の一つであったことを実証した。

ス)が出される鴨川、昔ながらの風情を残す祇園界隈を流れる白川、京都の近代化を支えた琵琶湖疏水など、水系基盤による京都の都市づくりを歴史や景観、風土まで含めて総合的に研究。その成果を論文にまとめ、博士号を取得しました。

「熊本にも加藤清正による素晴らしい治水工事の歴史がありますが、昔の土木技術は100年後にも立派に通用するものでした。例えば、川除けもその言葉が示すように、川の流れを剛の力で抑えるのではなく、川を利用しながら洪水による被害を最小限に抑えることを可能にする、柔よく剛を制する技術。こうしたしなやかで持続可能な技術や哲学を継承していくために、これ



今年9月に開催された「九州アザインシャレット2006」。シャレットとは、専門家が集まって短期集中型で議論し提案する場。昨年もこの場に参加した田中助教は「九州の学生はまじめで意欲的。何より仲間と熱く語り合えるところが魅力的」と感心。それが熊本大学での勤務を志望する動機の一つにもなったようだ。

からは歴史や景観にも目を向けて、総合的に社会基盤を計画、施工することが大切だと思います」と語る田中助教。フィールドに向いて多くの人と触れ合う中で、人や地域に寄り添い考えることの大切さを実感しています。

まるっと見渡せることが大切

「部活動の仲間もそうですが、大学で一緒に学んだ友は一生の友になります。また、卒業後は、教員と学生、先輩と後輩の垣根を越えて、同じ専門分野を学んだ同志」としての関係を深めていくこともできます。学生時代に多くの友人をつくり、人間関係の基礎をつくり、その幅を広げて欲しいですね」と語る田中助教。



PROFILE

田中 尚人(たなか・なおと)

京都府出身。京都大学大学院工学研究科環境地球工学専攻博士後期課程単位取得退学。同大学院助手、岐阜大学社会基盤工学科講師を経て、2006年4月から熊本大学大学院自然科学研究科助教。工学博士。

「熊本は、歴史と自然に恵まれたまち。熊大工学部には人が生活するのに必須な社会基盤や環境を対象とした研究分野がバランスよくあり、世界的に有名な先生も多い。研究者の立場から見ても魅力的な大学。私たちの研究では昔の文献や資料なども大切ですが、熊大には五高から続く歴史と伝統があり、また総合大学であることから、理系の図書室にはない資料も、文系の図書室ですぐ読めるというのがうれしいですね」

「今、社会で必要とされるのは、トータルにも見る目と論理的に説明する力。まるっと見渡せることが大切。まるっと考えよう」と熱心に学生たちを指導。工学の専門分野にとどまらず、広く他分野の人々との協同行いながら、前号でも特集したまちなか工房へも積極的に顔を出して、熊本中心街地の活性化や白川・坪井川による都市形成、まちづくり、道普請、水辺デザインなどをテーマに熊本県内のフィールドでの研究を開始しています。

その一方で、九州の大学研究者らが連携して立ち上げた「風景デザイン研究会 (URL: <http://www.takedesign.com/>)」に加わって「人々が心地よく暮らすための公共空間を守り育てよう」と呼びかけ、工学部の学生有志が主体となって取り組んでいる「九州アザインシャレット (URL: <http://www.kyushu-azainsharet.com/>)」に講師として参加するなど、精力的な活動を展開中です。



左上)大学近くの河原で行ったペットボトルロケットの飛翔実験
 右上)泥団子の強度を調べる中学生
 左下)ライトレースロボットの製作指導
 中下)今年からグループリーダーとなった技術系統括の神澤龍市さん
 右下)技術相談会発案者の技術部副技術部長、丸山繁さん



地 域 と と も に 工学部技術部

子どもたちが 理科を好きになるきっかけに

「夏休みの自由研究に関する技術相談会」

熊本大学工学部の技術部は、技術職員による研究や実験の支援をより効率的、より統合的に行うため、平成10年に教官組織とは独立した1つの組織として発足しました。以来、技術職員の組織化は「熊本大学方式」と呼ばれ、全国の大学に波及しています。しかし、技術部が全国の先駆けとなったのはこうした組織化の面だけではありません。子どもたちが理科を好きになるきっかけにと始めた「夏休みの自由研究に関する技術相談会」もまた、全国に先駆けた取り組みでした。

地元中学生を対象とした 全国の大学で初の取り組み

技術部は、環境建設技術系、生産構造技術系、電気情報技術系、応用分析技術系、機器製作技術系の5つの分野から構成されており、学内での教育研究支援だけでなく、学外の地域貢献事業にも積極的に取り組んでいます。その一つが、毎年7月下旬に2日間、本学工学部で開催される「夏休みの自由研究に関する技術相談会」です。熊本大学工学部地域貢献事業の一環として行われるこの相談会は、自由研究が必須課題である中学1・2年生が対象。平成15年に始まって以来、今年で4回目を迎えました。

きっかけとなったのは、毎年5月に本学主催で開催される「干潟フェスタ」。

ムツゴロウなど有明海の干潟に棲む生物に触れることで、干潟の機能や重要性を学ぶ体験型教育イベントです。このイベントの担当者が、地域環境工学が専門で、有明海の干潟環境を研究している技術部副技術部長の丸山繁さん。都台で同フェスタに参加できずに残念がっていた中学生の力になれないかと、丸山さんが発案。大学側も快諾し、発案からわずか2カ月後に第1回目が開催されました。「今では全国の大

学や高専で行われるようになりましたが、本学が全国初の取り組みだったんですよ」

実験を中心に分かりやすく 丁寧かつ熱心な指導が好評

相談可能な自由研究のテーマは、地震や干潟、ロボットといった、主に工学系の内容が中心です。生徒は、相談したい研究テーマを、申し込み時にあらかじめ決定。相談内容に応じて、技術部職員や、共催である熊本電波工業高等学校の技術職員の中から、それぞれ

の専門家が対応します。

中学校と異なり、専門の研究・実験施設や関連資料が充実しているのも大学の特徴。「実際に体験した方が興味が湧くから」と、相談会は相談内容に応じた実験が主体です。例えば、「泥団子の秘密」が研究テーマの場合、水の量を変えて何個も泥団子を作り、泥団子の固さの秘密に迫ります。また、「熊本県の土の分布」がテーマの場合、阿蘇や天草、水俣など、実際に生徒と一緒に県内各地を回り、各地の土を採取。どのような違いがあるのか、実験室で土のサンプリングを行います。いずれも、大人も思わず参加したくなるような、興味深い実験ばかりです。

会当日の相談に止まらず、アフターフォローも万全。要望があれば、相談会後も気軽に相談に応じます。このように、子どもたちの興味を掻き立てる丁寧かつ熱心な指導が好評で、今年も第1回目の3倍を超える65人の生徒が参加。1年生だった生徒が翌年も参加する「リピーター」も少なくありません。「相談会では、なるべく私たちは手を出さないで、子どもたちに考えてもらうことで、興味を持ってもらう、その過程のお手伝いができればと思っています。この相談会が、子どもたちに理科に興味を持ってもらうきっかけになればうれしいですね」と丸山さん。

相談会に来た生徒が 熊大に入学するのが楽しみ

時には、「虹について」や「植物の斑はどうしてできるのか」、「セミの生態について」といった、工学系以外の相談が来ることも。そんな専門外の分野でも決して断らずに受け入れるのが、この相談会の懐の広さです。担当となった職員がインターネットで調べたり、書店で専門書を購入して勉強したり…。それでも手に負えない場合は、理学部や薬学部、医学部などその分野の専門の教員に相談したり、県の農業

センターに問い合わせたり。「今までに断ったテーマは一つもないんですよ」と、丸山さんは胸を張ります。

毎年、多忙な本業の合間を縫って行われる相談会の準備。熊本市近郊の各中学校へ、文書で告知するだけでなく、直接校長先生のもとを訪れて回り、生徒の参加を呼びかけます。

ほとんどボランティアに近い作業にも関わらず、「子どもたちからお礼状が来たり、出来上がった自由研究を送ってくれたりすると、やりがいを感じますね」と神澤龍市さん。丸山さんも「中学生は素直で理解が早いし、意欲もある。目をキラキラさせて実験に夢中になっていきますよ」と目を細めます。「1回目の相談会に来た子どもたちは、もう高校生。熊大に入学して来てくれるのを楽しみにしています」

走査型電子顕微鏡 (SEM) で撮った松葉の気孔



ペットボトルの中で作った人工雪の結晶

卒業生を訪ねて

税理士(甲斐郁子税理士事務所)
甲斐 郁子さん

勉強も仕事も人生も、 土台をしっかりとすることから はじめたい

勉強、資格取得、結婚、出産、子育て、そして開業。
女性として、職業人として、着実にその道を歩む税理士、甲斐郁子さん。
望むものをすべて手に入れてきたかのように見えるその道のりには、
目標に向かいコツコツと、努力を積み重ねる粘り強さがありました。
人生は「土台をしっかりと」。“それが甲斐さんの哲学のようです。



粘り強さを活かしたい

資格を持つということは女性にとつてとても魅力的なこと。私は高校生の頃からそう考えていました。家庭もちゃんと持ちたい、やりがいのある仕事もしたい。組織に入ってしまうと、融通がきかなくて、その両方を実現するのは難しくなるかもしれないし、実現したとしても中途半端になってしまうと思っただけです。なんでも機械化され、人手はほとんど必要なくなっていく世の中、専門を持つということがは有利なことでもありますよね。

資格を取るなら税理士と思ったのも高校生の頃。父が不動産業を営み経営のことを税理士さんに相談していたので、幼い頃から税理士という職業は身近でした。何かに秀でた才能や芸術的なセンスには自信がなかったけれど、粘り強さや、目標に対して努力することには自信がありました。数学が得意だったのも税理士になった理由の一つかもしれません。

「こつこつ」、コツコツと積み上げて

熊本大学の法学部に進学し、大学時代の前半はテニス部でテニスはばかりしている毎日でした。もっいつも真っ黒。

この時の仲間とは今も家族ぐるみで年に一度旅行をするくらい仲がいいし、夫と知り合ったのもテニス部です。

大学院法学研究科では山中至先生のゼミに入りました。テニスにわけがなくて、基礎学力のない私でした。研究論文のテーマとして未公開の大阪地方裁判所判決原本を取り上げ、毛筆書きの判決文を「解読」して何が書いてあるのか理解することから始めましたが、私とちゃんと読んでいるか、先生が読み合わせまでしてくださったんです。大学院の1年半を費やしたと言ってもいいほど大変な作業でしたが、このことを通じて、基礎をしっかりと固める大切さを学びました。資料づくりをしっかりとやれば、視点を変えて分析することもできる。最初にきちんとやっておく大切さはどんな仕事にも通じますよね。そんな、コツコツと一つひとつ積み上げるやり方を大学時代に学びましたね。

子育てと開業、自分のペースで両立を

税理士の資格を取るにはいくつかの方法がありますが、当時はその中に大学院を修了すると税理士資格取得できるという「科目免除制度」がありました。熊本の大学院を修了後、5年ほど公

認会計士事務所勤めていましたが、資格取得に必要な科目を履修するため、退職、熊本県立大学大学院を受験しました。ところが、通い始める頃にはお腹が大きくなってしまっていて。ゼミの先生も、週のうち一日に講義科目を集中させるなど協力してください、出産後は自分と夫双方の両親が育児を助けてくれたんです。周りの人に恵まれて県立大の大学院を修了し、税理士資格を取得できました。

現在は事務所を興し、責任ある立場になり、税理士としてお客様のビジネスを支援するだけでなく、自分の事務所の経営や顧客の開拓などの責任も負っています。また、昨年から「くまもと県民力レズジ」の「地域社会コー」スで、男女共同参画や地域課題解決に関するセミナー講師もさせてもらって

います。勉強、資格取得、出産、子育て、そして開業と、時期が集中したのですが、子どもが生まれて大変だったと思っただけではありません。世の中にはたくさんいるけれど、自分の子は自分がいなければ生まれてこなかった。その誕生がうれしく、生きがいになっています。今はまだ子育てに時間がかかるので仕事はたくさんは受けていませんが、自分のできる範囲でやって、よろこんでもらえれば満足です。余裕ができてから仕事は広げていけばいいわけですから。私の経験がすべての人に当てはまるわけではないと思いますが、少しずつでも経験を積み重ねることが実績になる。そう考えて、子育てと仕事の両立をめざす女性がが増えて欲しいですね。



学生時代にとびうめ国体に出場したときの写真。後列左から2人目が甲斐さん。

PROFILE

甲斐 郁子(かい・いくこ)

1969年、熊本市生まれ。熊本大学法学部卒業、同大学院法学研究科修了。熊本県立大学大学院アドミニストレーション研究科修了。公認会計士事務所勤務を経て、2004年税理士登録および開業。2005年NPOアカウンタント取得(熊本県の第一号)。

※NPOアカウンタント…職業会計人(税理士、公認会計士)で、一定の研修を修了した人に与えられる。

国際交流

日韓交流を促進した

「熊本大学韓国フォーラム2006」

韓国科学技術院と大学間交流協定も締結

日韓の学術研究や教育の交流を深め、両国間の産学連携を進めるため、熊本大学は今年9月26・27日、韓国の科学技術都市・大田広域市で「熊本大学韓国フォーラム2006」を開催しました。日韓それぞれの研究者による最先端の研究発表や学生間交流のほか、県内の企業等の参加を得て産学交流も活発に行われ、フォーラム終了後の28日には、本学と韓国トップクラスの大学「韓国科学技術院(KAIST)」との間で大学間学術・学生交流協定も締結されました。

東アジア地域における国際連携を強化

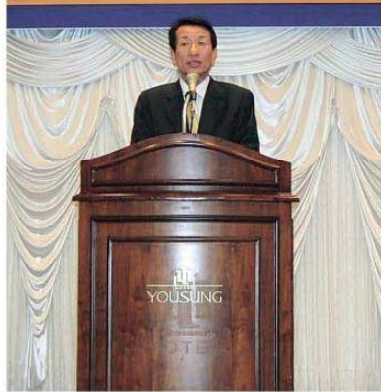
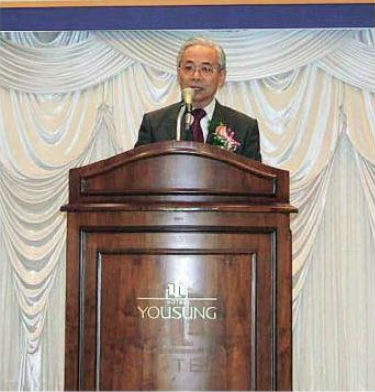
本学は、世界各地の大学との国際交流はもとより韓国や中国など東アジア地域との国際連携を進めています。今回の韓国フォーラムは昨年の上海での開催に続き、本学にとって2回目の海外フォーラム。これまでに韓国の10大学と協定交流を行ってきた経緯もあり、両国合わせて延べ450人が参加、企業からの発表も11社にのぼるなど盛況な会となりました。

フォーラム実行委員長の小野友道理事、副学長は、「特に、交流協定校である韓国の培材大学校には、会場の提供や韓国企業への参加誘致など多くの面で協力していただきました」と謝意を表明。同大学との絆がいつそう深まるとともに、さらに多くの研究機関や企業との交流を促進する好機となりました。

また、今回は本学に新設した国際戦略室を中心に、事務側で企画運営にあたったことも大きな特色でした。



기업청 대전충남지방사무소, 쿠마모토현 ■ 주관_ 산 기업청 대전충남지방사무소, 쿠마모토현 ■ 주관_ 산학



上)多くの参加者が集まった韓国フォーラム 2006
 中左)あいさつする嶋元達郎熊本大学長
 中右)鄭淳勳培材大学校総長
 下左)活発な情報交換が行われた学生間交流
 下右)研究者や企業の研究内容などをパネル展示した会場にも多くの人が集まった。

先端研究に強い関心 学生間交流も活発

フォーラム初日は、熊本大学長や培材大学校長、韓国科学技術院産学連携室長などの基調講演の後、本学の大学院自然科学研究科の秋山秀典教授が21世紀COEプログラムの一つである「衝撃エネルギー科学の深化と応用」について、同研究科の河村能人教授が本年度の「地域結集型研究開発プログラム」に採択された「高強度高耐食マグネシウム合金の開発」についてなど4件の世界最先端の研究内容を講演。

韓国側からも、ソウル大学の李榮純教授による「種の絶滅と環境ホルモン」などバイオ医薬研究をはじめ最新の研究についての講演が3件あり、東アジア地域における多彩な分野の最先端学術交流が行われました。

フォーラム2日目に開かれた産学シンポジウムでは、(財)くまもとテクノ産業財団の平野譲二理事兼事務局長らがいさつ。日本側6社、韓国側5社の企業による技術発表があり、その後の交流会でも産学間の情報が活発に交換されました。

今回のフォーラムでは、学生による研究発表や交流も充実していました。本学大学院自然科学研究科博士1年の

井澤一欽さん、同法学研究科修士2年の石田聖さんの2人のほか、韓国の大学院生3人がそれぞれの専門分野での研究を英語で発表。いずれも研究への高い意欲と熱意がうかがわれる内容で、会場に集まった学生たちも熱心に聴き、活発に質問をして理解を深めていました。また、その後の学生交流会では、日韓両国の学生が車座になって互いの研究や学生生活などについての情報や意見を交換し、親睦を深めました。

アジアトップクラスの韓国科学技術院と大学間交流協定を締結

本学が新たに大学間学術・学生交流協定を結んだ韓国科学技術院は、科学技術分野ではアジアでもトップクラスの研究教育機関として知られ、韓国内の大学評価ではソウル大学を抜いて1位となった名門の大学院大学です。

本学とは、2001年に工学部、自然科学研究科と部局間交流を結び、衝撃・極限環境研究センターを中心に研究者交流を行ってきました。この交流実績を基に、今回の大学間交流協定へと発展しました。

調印式で、同院の金常洙副総長は、本学との共同研究に大きな期待を寄せ、崎元達郎本学学長と協定書を取り交わ

しました。今後、研究者の相互派遣、大学院レベルでの国際インターシッピングの実施など、研究・教育両面でのさらなる交流と発展が望まれています。



交流協定書を交換する崎元達郎学長(右)と韓国科学技術院の金常洙副総長(左)

熊本大学と韓国の大学との交流協定締結状況

(2006.10.1 現在)

| | | |
|---------|-----------------------------|--|
| 大学間交流協定 | 培材大学校、東亜大学校、韓国科学技術院 | |
| 部局間交流協定 | 文学部 | 朝鮮大学校人文大学 |
| | 教育学部 | 江南大学校第Iカレッジ |
| | 法学部 | 韓南大学校法科大学 |
| | 工学部・自然科学研究科 | 国立釜慶大学校工科大学 韓国生産技術研究院非晶質・ナノ素材開発事業団 |
| | 衝撃・極限環境研究センター 地域共同研究センター | 湖西大学校ナノ素材及び応用製品地域技術革新センター 仁荷大学熱プラズマ環境技術地域研究センター |



懐かしい
キャンパスへ、
帰って
きませんか？

「第1回熊本大学 ホームカミングデー」 平成18年11月3日(金)12時～18時

熊本大学を巣立った卒業生が一堂に会し、母校の近況に触れ恩師や学友と再会する一日、「第1回ホームカミングデー」を開催します。

当日は、卒業生による講演会のほか、五高記念館や工学部研究資料館などをめぐるキャンパスツアー（希

望者）、ホームカミングデー・パーティを開催します。青春を過ごした大学生活を振り返り、恩師や学友、世代を超えた卒業生たちとの交流を深め、母校との絆をよりいっそう深める一日をお過ごしください。なお、11月2～4日は、大学祭“熊粹祭”も開催中です。

今回のご案内は、昭和28年(1期生)、38年、48年、58年、平成5年3月卒業の皆さんが対象です。

【記念式典】 13:00～

【講演会 第一部】 13:40～14:20

演題：「感染症と混乱の21世紀」

講師：財団法人国際保健医療交流センター理事長 蟻田 功氏(第五高等学校および熊本医科大学＝現熊本大学医学部＝卒)

【講演会 第二部】 14:30～15:10

演題：「どうやって熊大生が東証一部に上場できたか」

講師：株式会社フィディック(東証第一部上場) 深田 剛氏(熊本大学法学部卒)

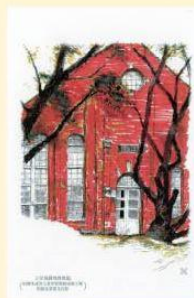
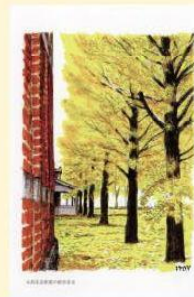
【キャンパスツアー】 15:20～

【ホームカミングデー・パーティ】 16:30～18:00

■主催：熊本大学 ■後援：熊本大学同窓会連合会 ■会場：熊本大学工学部百周年記念館

熊大オリジナルグッズ好評発売中！

大学のコミュニケーション・マーク制定を機に、このマークをあしらった熊大オリジナルのグッズが開発され、熊大生協で販売されています。背中の首部分にマークを入れたシンプルな白いTシャツ(1,800円)のほか、四季折々の大学構内風景を描いた絵葉書(1枚80円/封筒付5枚セット400円)、シャープペンと赤・黒2色のボールペン機能が付いた3機能ペン(ステンレス製1,900円/アルミ製900円)、シャープペン(84円)など8種類。熊大らしさが感じられるグッズとして好評です。



地域社会の進む道を探る～地域、行政、大学の連携 熊本大学政策創造研究センター「都市政策フォーラム」 平成18年11月12日(日)13時～16時半

地域社会が活性化し、持続していくためには、住民同士の支えあいや地域団体の活動の重要性はもとより、行政の取り組み、そして、大学の「知」と「技術」の社会還元が大きな役割を持っています。

熊本大学政策創造研究センターでは、東京大学大学院教授であり、熊本大学政策創造研究センター客員教授である姜尚中氏の基調講演ほか、パネルディスカッションによる「都市政策フォーラム」を開催。地域と行政、大学が連携を組み、どのように地域社会の課題を解決し地域づくりを展開できるのかを、住民参加の視点から探ります。

【開会挨拶】 13:00～

【第一部 基調講演】 13:10～14:30

演題：「新しい“愛郷”を求めてー地域の再生とネットワーク」

**講師：東京大学大学院教授
熊本大学政策創造研究センター客員教授
姜 尚中氏**

【第二部 パネルディスカッション】 14:40～16:20

テーマ：「地域を創る」

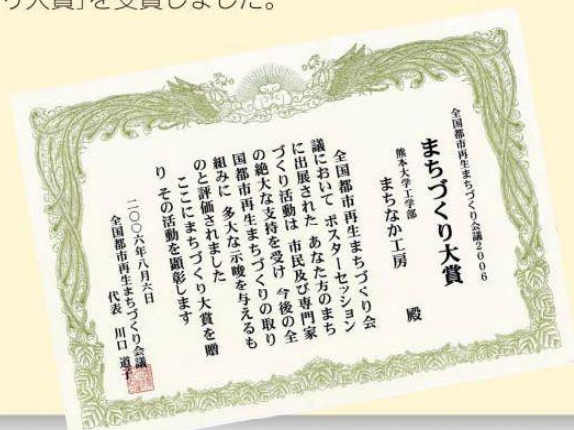
【閉会挨拶】 16:30

- 主催：熊本大学政策創造研究センター・熊本中央広域市町村圏協議会
- 会場：熊本大学工学部百周年記念館
- 参加申込方法：葉書、FAX で政策創造研究センターへ 先着150名
- お問い合わせ先：TEL.096(342)2044 FAX.096(342)2042

工学部の受賞相次ぐ

熊本大学工学部「まちなか工房」が「まちづくり大賞」を受賞

8月5・6日、「全国都市再生まちづくり会議・全国大会(共催・NPO 法人日本都市計画協会)」で、熊本大学工学部「まちなか工房」の『地域と連携したまちづくり』が、まちづくりの優れた取り組みとして顕彰され、「まちづくり大賞」を受賞しました。



全学部的な国際標準工学教育が評価されて「日本工学教育協会賞」を受賞

熊本大学工学部は、国際標準の教育認証(JABEE や ISO-14001)に、全学部を挙げて取り組んできました。この活動が評価され、7月28日に開かれた「日本工学教育協会第54回年次大会」で、日本工学教育協会賞を受賞しました。同学部は、土木・機械・電気・建築・材料系の各学科が JABEE の教育認証を受けたほか、化学系学科が環境教育に関する ISO-14001 の認証を受けています。全国の大学の中でも、全系学科で国際基準の認証を得たのは熊本大学が初めてで、こうした点も高く評価されました。



JABEE
(Japan Accreditation Board for Engineering Education)

Book
Vol.14

おすすめの一冊

生涯学習教育研究センター教授
嵯峨 忠

「バイオポリティクス～人体を管理するとはどういうことか～」

米本昌平著(中公新書,2006.6.25刊)



科学史・科学論の立場から、生命倫理(バイオエシックス)を30年来の研究領域としてきた著者は、先端医療やバイオテクノロジーの規制に関する政策立案の問題を強く意識し、世界中の生命倫理に関連する規制政策を詳しく比較分析してきた、わが国でもユニークなバイオエシストである。

4年前には、自らの所属するセクションを科学技術文明研究所として独立させ、英語、ドイツ語、フランス語、スウェーデン語、中国語、韓国語等、それぞれの語圏の語学にも堪能な若手研究者を配置し、生命倫理さらにそれを越えた生命科学に関する各国の政策を、国際的・横断的に比較分析できる世界でも唯一の研究組織とした。メンバーによるここ数年の検討過程で得られた成果の一部が、本書での情報提供と提言となっている。

ゲノム情報の活用と規制、バイオバンク、クローンとES細胞研究、遺伝子組み換え食品、人体全組織の医療資源化、身体処分のルール、着床前診断、医療の国際化、生命の扱いを巡る南北格

差問題等々。生命操作技術の活用と21世紀科学のメイン領域となってきた「内なる自然」研究＝生命科学領域の展開に関わる問題は、もはや生命倫理の議論枠では捉えきれない「バイオポリティクス」の問題であり、そのような次元での対処が急がれる問題なのだというのが、本書の提言である。

特に、アメリカ流の自己決定を中心とした自由主義倫理に基づく身体組織の商品化と、その流通攻勢への警戒から、公序を重んじつつ、人間の尊厳に由来する根本的価値を尊重すること、科学の進歩とを両立させる意図で、法律や規制の制定に努力している欧州との比較紹介は、詳細で明快である。

生命科学に携わる人には、自らの立つ知政学的な位置を再確認する意味で、また、生命操作の規制が如何にあるべきかに関心のある人々にも、本書は、いま読んで欲しい一冊としてお薦めしたい。

熊本 新哲学の道

俳人たちも好んだ江津湖散策

さわさわわわ…。

せせらぎの音と風に吹かれる葉ずれの音。江津湖を訪れると、耳に心地よい音がいつも迎えてくれます。

阿蘇の伏流水が湧き出る江津湖は、上江津湖と下江津湖からなるひょうたん形の湖で、加藤清正が築いた^{とち}塘によって加勢川の流が堰き止められてできたものと伝えられています。この江津湖畔で生まれ育った俳人・中村汀女が「藻の花や小魚吐きたる泡いくつ」と詠んでいます。今も変わらず澄んだ水には、群れ泳ぐ小魚や流れに揺れる藻を見ることができます。悲しいかな、水底にはゴミも見えますが。

“水の都熊本”の象徴ともいえる江津湖は、文字どおり市民のオアシスとなっています。これから先は、江津湖は初めてという方のために、江津湖でのんびりしよう会会長(自称)の私が、駆け足で案内いたしましょう。まずは、印象派の画家・モネの『睡蓮』を彷彿とさせる、上江津湖そばの遊水池での読書はいかがでしょう。本当は誰にも教えたくないとおきの場所です。近くには鬱蒼と茂った芭蕉林があり、林の中を歩くとジャングル探

検気分です。その傍らには高浜虚子の巨大な句碑が、芭蕉に負けぬ存在感で建っています。前述した中村汀女をはじめ熊本所縁の俳人・作家等の文化人の文学碑が江津湖周辺に20基建つ



ており、碑巡りをしながらの江津湖散策もお勧めです。湧水池を抜けて上江津湖に出ると、憩い楽しむ人たちがいつもにぎやかです。にぎやかなのは人ばかりではありません。動植物も多種多様な顔ぶれです。彼らに興味湧いたら、下江津湖の自然観察園へ足を伸ばしてみましよう。ここには江津湖に生息する動植物の説明パネルが設置してあります。この他、下江津湖の左岸には熊本市動植物園があり、日中であれば散歩の道すから動植物園の動物たちを見ることができて、楽しさ倍増です。

のんびりと江津湖で過ごしてみませんか？

(企画部 企画課 北本 智美)

「耐性」に効く新エイズ薬

熊本の 日米チーム開発 満屋教授ら

【フロンティア共同】耐性ウイルスの新たな抑制薬「ボタミ」の開発に、熊本の満屋教授らによる日米共同チームが貢献している。世界で初めて開発された「ボタミ」は、耐性ウイルスの増殖を抑制する効果があり、HIVの増殖を抑制する効果が期待されている。HIVの増殖を抑制する効果があり、HIVの増殖を抑制する効果が期待されている。HIVの増殖を抑制する効果が期待されている。



満屋昭明熊本大教授

「ボタミ」は、耐性ウイルスの増殖を抑制する効果があり、HIVの増殖を抑制する効果が期待されている。HIVの増殖を抑制する効果が期待されている。HIVの増殖を抑制する効果が期待されている。HIVの増殖を抑制する効果が期待されている。

8/15 熊本日日新聞

次世代耐熱マグネシウム合金の展望と課題

熊本大は、県内外の企業や公的機関と研究チームを組み、自動車エンジン向けの新素材として注目される「次世代耐熱マグネシウム合金」の実用化に向けた研究に着手する。この分野の第一人者で、チームリーダーを務める河村能人教授（工学部）が、研究課題や展望などを聞いた。（川崎浩平）

「地球温暖化防止のため、二酸化炭素排出削減は喫緊の課題。（次世代耐熱マグネシウム合金を使い）自動車の軽量化、燃費の向上が実現すれば、それに大きく貢献できる。ほかにもパソコンやデジカメなど情報家電、車いすなど幅広い分野での活用が見込める」

自動車の軽量化で燃費向上より大型の鋳造技術めざす



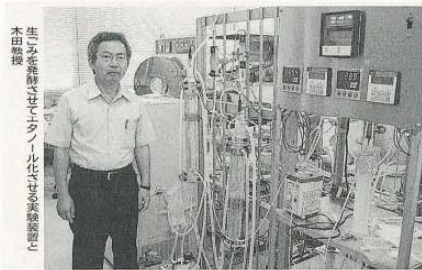
熊本大学院 河村能人教授

「大きいものを造ろうとすると、溶解の際に不純物が混ざりやすい。冷ますのに時間がかかるため成分が均一でなくなる。直径五〇センチの鋳造に世界で唯一成功しているが、エンジンピストンには九五センチ必要。五年以内に成功させたい」

石川 川かわむら・よしひと 熊本出身。名古屋工業大学工学部卒業。デンソー研究開発部研究員、東北大学金属材料研究所助教授などを経て2000年10月に熊本大工学部教授。06年4月から現職。熊本市在住。

「くまもとテクノ産業財団を介して地場企業への技術移転を図ればと考えている。小さい部品であれば、地場の自動車部品、半導体関連メーカーも参入できる。知的資源や技術が集約すれば、熊本は次世代耐熱マグネシウム合金の世界的な供給拠点になれる」

インタビュー



生ゴミを発酵させてエタノール化する実験機

熊本大工学部の木田建次教授は、9月1日、一般社会の実験機にエタノールを生産する実験を開始。カリフォルニア州のバイオマス資源を利用したエタノールを生産する実験機に、生ゴミを原料とする。熊本大工学部の木田建次教授は、9月1日、一般社会の実験機にエタノールを生産する実験を開始。カリフォルニア州のバイオマス資源を利用したエタノールを生産する実験機に、生ゴミを原料とする。

原料は家庭から 木田・熊大教授が実験開始

熊本大工学部の木田建次教授は、9月1日、一般社会の実験機にエタノールを生産する実験を開始。カリフォルニア州のバイオマス資源を利用したエタノールを生産する実験機に、生ゴミを原料とする。熊本大工学部の木田建次教授は、9月1日、一般社会の実験機にエタノールを生産する実験を開始。カリフォルニア州のバイオマス資源を利用したエタノールを生産する実験機に、生ゴミを原料とする。

9/1 熊本日日新聞

編集後記

熊本大学に赴任して5年目に入り、熊本の良さ、熊本の住み易さを楽しみ感じることが多くなりました。もうすぐ熊本城築城400年祭が始まりますが、特集に取り上げたように、熊本には日本で最初の医学教育の伝統があることも、もっと誇りにしても良いと思います。医療の分野では、新しい治療法や華やかな話題とともに、医療事故の問題、先端医学がもたらす新たな倫理問題など、さまざまなニュースが報道されない日はありません。医療と社会の関係はそれだけ深まっています。嵯峨先生の書評にもあるように、医師・研究者も社会・政策と無縁ではられません。良い医療を提供することは当然として、良い医療を実践できる社会を作る役割を自覚することが、個々の医療者が現代の「大醫」を目指す道でしょう。これは医療・医学に限らず大学全体にも通じる課題です。内部的に努力するだけではなく、良い教育・研究・地域貢献を実現できる社会環境を作るために、外に向かっても積極的に働きかけ、参加していくことが求められていると感じています。（桑 和彦）

編集委員

- (委員長) 上野真也 政策創造研究センター
- 佐藤毅彦 教育学部
- 桑 和彦 発生医学研究センター
- 田中尚人 大学院自然科学研究科
- 西村兆司 広報戦略主幹

熊本大学広報誌
熊大通信
KUMADAI TSUSHIN

皆様のご意見・ご感想をお寄せください。
2006年10月発行 編集 / 熊大通信 WG 発行 / 熊本大学
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号 TEL.096-342-3119 FAX.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学公式ホームページ
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

THE FUTURE GREATNESS OF JAPAN
WILL DEPEND ON THE
PRESERVATION OF
THAT KYUSHU OR KUMAMOTO SPIRIT
-THE LOVE OF WHAT IS PLAIN AND GOOD
AND SIMPLE,

AND THE HATRED OF USELESS LUXURY
AND EXTRAVAGANCE IN LIFE
January 1904 Lafcadio Hearn

熊本スピリット、今も。

第五高等中学校の英語教師だったラフカディオ・ハーンは、

明治27年の講演で、「熊本魂」を持ち続けることが

日本の将来を左右すると学生たちに熱く語りました。

日本女性と結婚し、日本をこよなく愛したハーンは、

「素朴、善良、質素なる九州魂あるいは熊本魂」を

何より尊んでいたのです。そして今。

時はうつっても、ひたむきに学び、

誠実に生きようとする熊本スピリットは、

ここ熊本大学のキャンパスに受け継がれています。



富重利平撮影
富重写真所蔵

熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム

五高記念館は国の重要文化財に指定され、本学のシンボルとなっています。このほかにも、重要文化財等の赤煉瓦建物群や登録文化財となっている建物、また、他のキャンパスで保存・活用されている施設があり、これらの建物・施設・資料等から成る熊本大学博物館の実現を目指しています。その第一歩として、平成18年度から五高記念館の整備に着手し、高等教育研究資料館としての個性を持たせ、ラフカディオ・ハーンや夏目漱石など、いくつかのテーマごとに史・資料の整備を進め、展示・公開できるよう計画しています。

[開]10:00~16:00(入館は~15:30) [休]火曜、土・日曜を除く祝日 [料]無料

